

2023年3月期 決算説明会

(2024年3月期-2026年3月期 新 中期経営計画)

2023年6月9日



1. 前 中期経営計画（2021年3月期-2023年3月期）レビュー
および2023年3月期 連結業績概要
2. 新 中期経営計画（2024年3月期-2026年3月期）および
長期ビジョン
3. トピックス

1. 前 中期経営計画（2021年3月期-2023年3月期）レビュー
および2023年3月期 連結業績概要
2. 新 中期経営計画（2024年3月期-2026年3月期）および
長期ビジョン
3. トピックス

前 中期経営計画（2021年3月期-2023年3月期）レビュー

単位：百万円

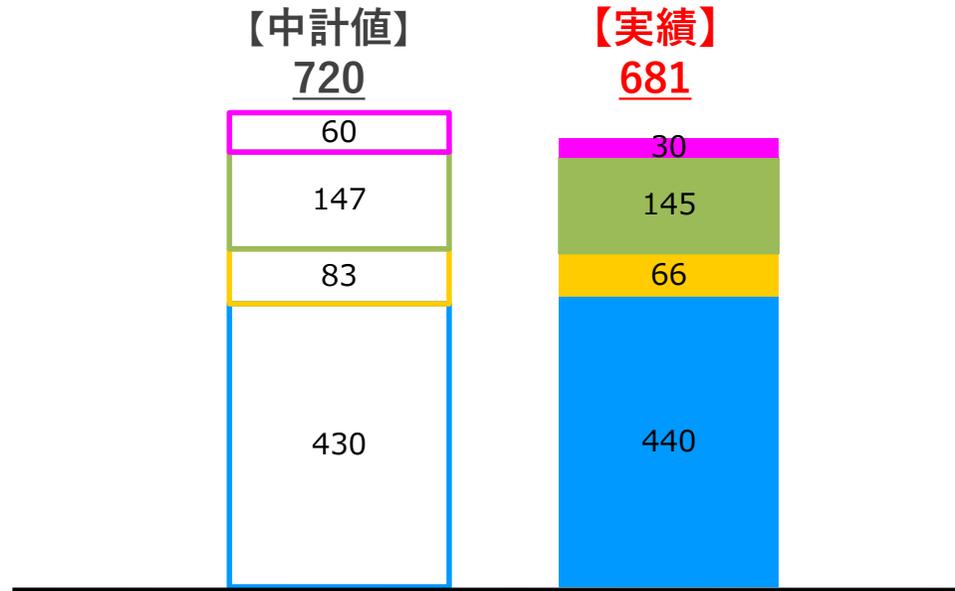
	2021/3期	2022/3期	2023/3期
売上高	57,136	64,291	68,138
売上総利益	7,626	11,068	10,261
営業利益又は営業損失(△)	△ 2,751	444	△ 142
経常損失(△)	△ 5,478	△ 4,652	△ 2,957
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)	△ 5,313	△ 9,651	△ 3,007

売上高 2023年3月期 中計対比

単位：億円

■ ガラスびん関連事業 ■ プラスチック容器関連事業 ■ 物流関連事業 ■ ニューガラス関連事業

【連結売上高】



【2023/3期 主な連結売上高中計差異要因】

- ガラスびん関連事業において、中国連結子会社の撤退があったものの、タイ子会社を新たに連結化したことおよび販売単価の上昇により増収
- プラスチック容器関連事業において、国内の販売量減少やインドネシア連結子会社の清算により減収
- ニューガラス関連事業において、中国のロックダウンや世界的な資材調達遅延等による顧客の生産減少、台湾連結子会社の清算等の影響により、減収

経常利益 2023年3月期 中計対比

【連結経常利益又は損失(△)】

単位：億円	中計値	実績
ガラスびん関連事業	5.0	△0.1
プラスチック容器関連事業	4.0	△4.2
物流関連事業	3.0	5.0
ニューガラス関連事業	5.0	△4.6
全社調整	8.0	△25.7
合計	25.0	△29.5

【2023/3期 主な連結経常利益又は損失(△)中計差異要因】

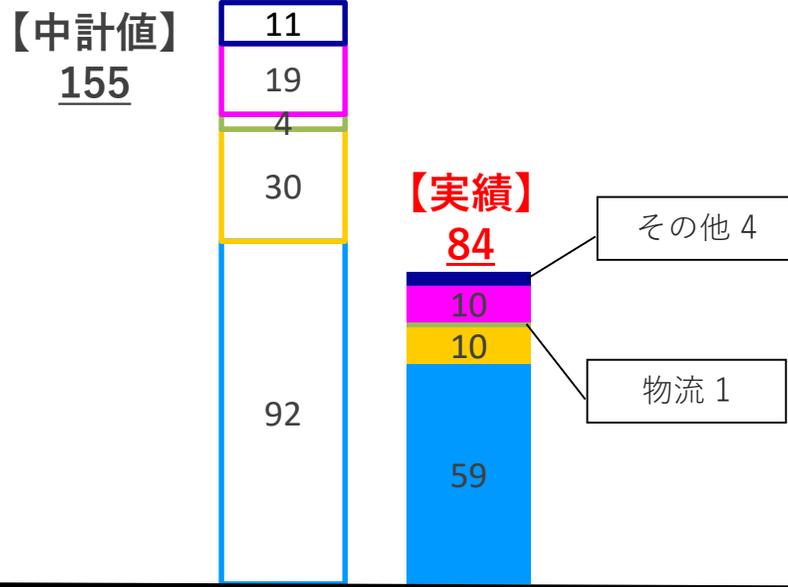
- ガラスびん関連事業において、販売単価の上昇、設備投資の抑制による減価償却費の減少など良化要因があったものの、原燃料・動力価格の大幅な高騰をカバーできず減益
- プラスチック容器関連事業において、価格改定等による販売単価の上昇があったものの、原料・動力価格の高騰等により減益
- ニューガラス関連事業において、出荷の減少や原燃料費等の費用の増加、台湾連結子会社の清算等により減益
- 全社調整において、米国およびフィリピン関連会社で赤字となり、減益

設備投資/減価償却費 2021年3月期-2023年3月期合計 中計対比

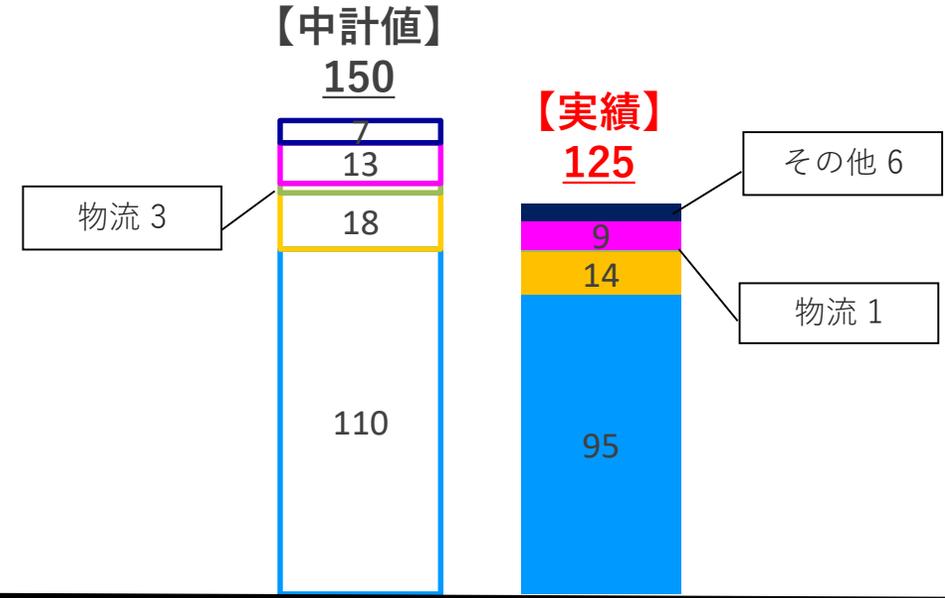
単位：億円



【設備投資】



【減価償却費】



【2021/3期-2023/3期 主な設備投資中計差異要因】

- ガラスびん関連事業において、ガラスびん製造設備更新延期等により減少
- プラスチック容器関連事業において、生産ライン増設中止等により減少

【2021/3期-2023/3期 主な減価償却費中計差異要因】

- 全体的な設備投資の減少により減少

前 中期経営計画について

2023/3期 中計値

売上高 720億円
経常利益 25.0億円

2023/3期 実績

売上高 681億円
経常利益 △29.5億円

- 中計の大幅未達・巨額の赤字計上を受け、業績改善が喫緊の課題と認識し、当社100期（2029/3期）に向けて、2023/3期より事業構造改革に着手
- 当該改革の一環として、中国連結子会社の持分譲渡を完了（2022年4月28日発表）。またインドネシア連結子会社の清算（2022年5月16日発表）、台湾連結子会社の清算（2022年6月14日発表）、固定資産の譲渡（2022年7月14日発表）を決議

連結決算ハイライト（2023年3月期）

単位：百万円	2022年3月期	2023年3月期	増減額	増減率
売上高	64,291	68,138	+3,846	+6.0%
売上総利益	11,068	10,261	△806	△7.3%
営業利益又は営業損失(△)	444	△142	△587	—
経常損失(△)	△4,652	△2,957	+1,694	—
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)	△9,651	△3,007	+6,643	—

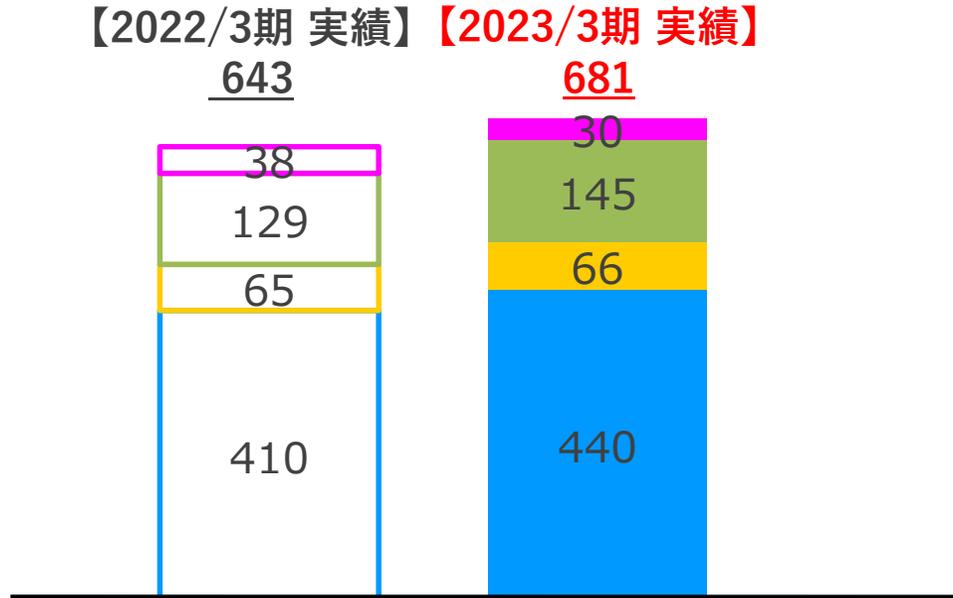
- 売上高は、主にガラスびん関連事業において、コスト上昇に伴う販売単価の上昇により増収
- 営業利益は、原燃料・動力価格の高騰による影響が大きく減益
- 経常損失は、持分法による投資損失が減少したことにより、改善
- 特別損失は、連結子会社の解散に関連する事業整理損等を計上

売上高 2023年3月期実績 前年対比

単位：億円

■ ガラスびん関連事業 ■ プラスチック容器関連事業 ■ 物流関連事業 ■ ニューガラス関連事業

【連結売上高】



【2023/3期 主な連結売上高前年差異要因】

- ガラスびん関連事業において、中国連結子会社の撤退による減少はあったものの、コスト上昇に伴う販売単価の上昇により増収
- 物流関連事業において、2021年9月に株式を取得した2社を連結子会社化したこと等により増収

経常利益 2023年3月期実績 前年対比

【連結経常利益又は損失(△)】

単位：億円	2022/3期 実績	2023/3期 実績
ガラスびん関連事業	△6.9	△0.1
プラスチック容器関連事業	4.4	△4.2
物流関連事業	5.0	5.0
ニューガラス関連事業	0.3	△4.6
全社調整	△49.3	△25.7
合計	△46.5	△29.5

【前年差】	
ガラスびん関連事業	+ 6.8
(内訳)	
販売単価の上昇	+23.0
資材単価等の上昇	△37.7
中国連結子会社の撤退	+ 6.9
その他	+14.6

【前年差】	
プラスチック容器関連事業	△ 8.6
(内訳)	
販売単価の上昇	+ 2.7
資材単価の上昇	△10.5
その他	△ 0.8

【2023/3期 主な連結経常利益又は損失(△)前年差異要因】

- 全社調整において、米国関連会社の業績改善により、持分法による投資損失が減少

連結貸借対照表－資産の部

	2022年3月期	2023年3月期	(増減額)
流動資産	38,874	35,220	△3,654
現金及び預金	11,129	7,647	△3,482
受取手形及び売掛金	17,950	18,414	+464
たな卸資産	9,096	8,122	△973
その他	756	1,038	+281
貸倒引当金	△58	△2	+56
固定資産	58,492	52,379	△6,112
有形固定資産	31,738	25,672	△6,066
無形固定資産	1,838	202	△1,636
投資その他の資産	24,914	26,504	+1,589
投資有価証券	2,533	2,396	△137
関係会社株式	19,246	20,134	+887
その他	3,399	4,237	+838
貸倒引当金	△265	△263	+2
資産合計	97,366	87,599	△9,767

単位：百万円

・現金及び預金
主に有利子債務の返済により減少

・有形固定資産
主に中国連結子会社の撤退により減少

・関係会社株式
為替換算調整勘定により増加

・その他
主に繰延税金資産の計上により増加

連結貸借対照表－負債の部

	2022年3月期	2023年3月期	(増減額)
流動負債	29,542	25,212	△4,329
支払手形及び買掛金	7,136	7,958	+821
短期有利子負債	11,852	12,301	+448
その他	10,553	4,952	△5,600
固定負債	27,609	24,898	△2,711
長期有利子負債	22,361	20,242	△2,119
その他	5,247	4,656	△591
負債合計	57,151	50,111	△7,040
株主資本	40,430	37,422	△3,008
資本金	14,074	14,074	—
資本剰余金	16,696	16,625	△71
利益剰余金	11,224	8,287	△2,936
自己株式	△1,565	△1,565	△0
その他の包括利益累計額	△521	△73	+447
非支配株主持分	305	139	△165
純資産合計	40,214	37,488	△2,726
負債・純資産合計	97,366	87,599	△9,767

単位：百万円

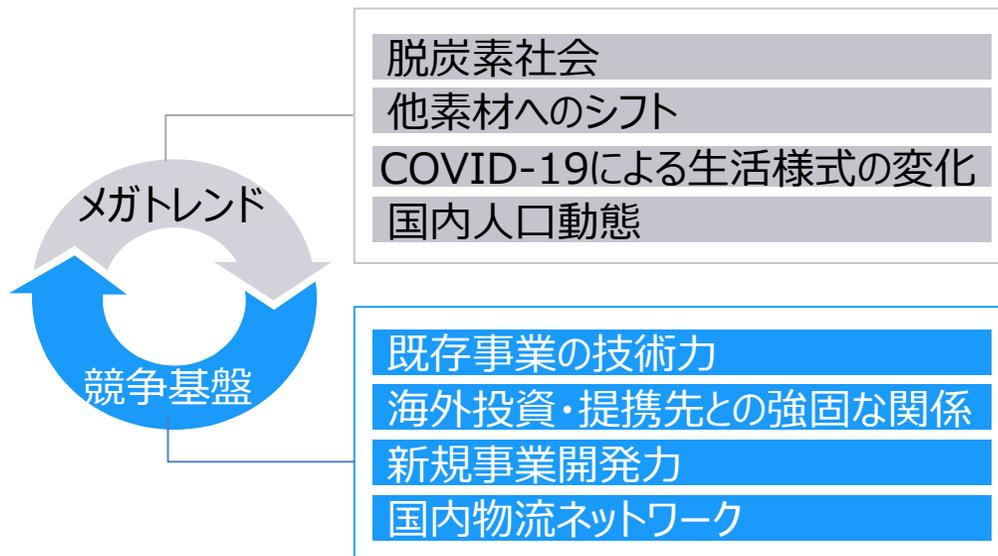
・その他
主に中国連結子会社の持分譲渡に伴う
事業整理損失引当金取り崩しにより減少

1. 前 中期経営計画（2021年3月期-2023年3月期）レビュー
および2023年3月期 連結業績概要
2. 新 中期経営計画（2024年3月期-2026年3月期）および
長期ビジョン
3. トピックス

グループ経営ビジョン

「100年先も必要とされる会社」

* ずっと未来も、山村グループに関わる全ての人や社会の役に立ち、必要とされ続けるグループでありたい。



フェーズ1 (24/3期～26/3期)

成長に向けた事業基盤の整備

- ▶ 財務基盤の整備
- ▶ 既存事業を強化する仕組みづくり
- ▶ 新しい事業を構築する準備
- ▶ 循環型社会の実現に向けた開発
- ▶ 従業員が誇りを持って働き続けたいと思える会社づくり

フェーズ2 (27/3期～29/3期)

持続的な成長に向けた飛躍

- ▶ 成長・新規事業の収益基盤の確立
- ▶ グローバルビジネスの拡大
- ▶ 環境対応技術でのビジネス展開

フェーズ3 (30/3期～)

グループ経営ビジョンの実現に向けて

- ▶ 循環型社会の実現に貢献する会社へ

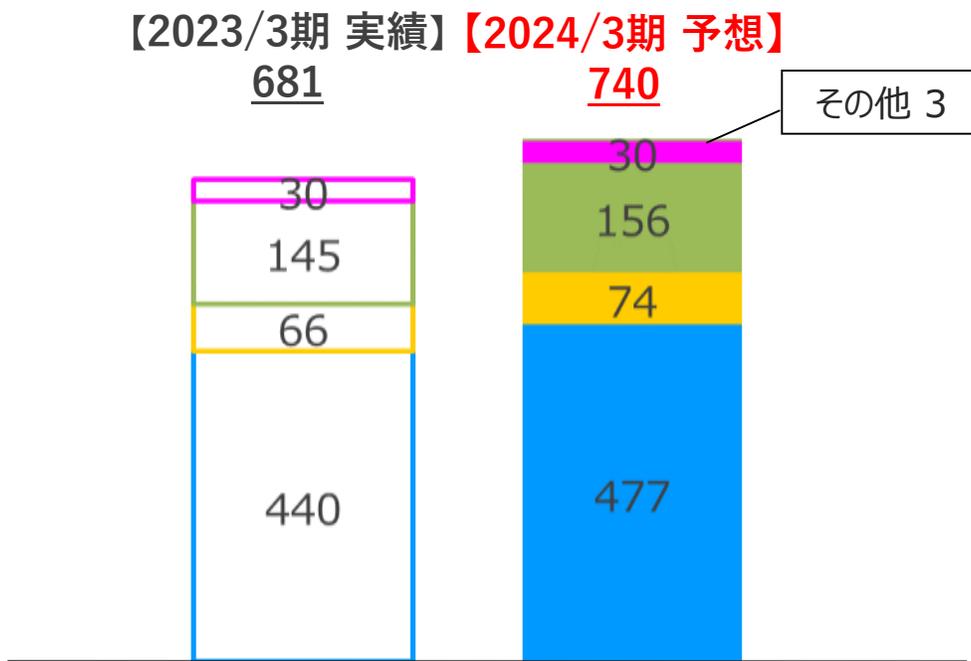
中長期的にROE 5%を目指す

売上高 2024年3月期予想 実績対比

単位：億円

■ ガラスびん関連事業 ■ プラスチック容器関連事業 ■ 物流関連事業 ■ ニューガラス関連事業 ■ その他

【連結売上高】



【2024/3期 主な連結売上高変化要因】

- ガラスびん関連事業において、販売単価の上昇や同業他社の設備縮小により当社販売量が増加することで、増収の見込み

経常利益 2024年3月期予想 実績対比

【連結経常利益又は損失(△)】

単位：億円	2023/3期 実績	2024/3期 予想
ガラスびん関連事業	△0.1	12.9
プラスチック容器関連事業	△4.2	1.7
物流関連事業	5.0	5.8
ニューガラス関連事業	△4.6	△0.4
その他	-	△0.5
全社調整	△25.7	△10.5
合計	△29.5	9.0

【前年差】	
ガラスびん関連事業	+13
(内訳)	
販売単価の上昇	+47
資材単価等の上昇	△37
中国連結子会社の撤退	+3

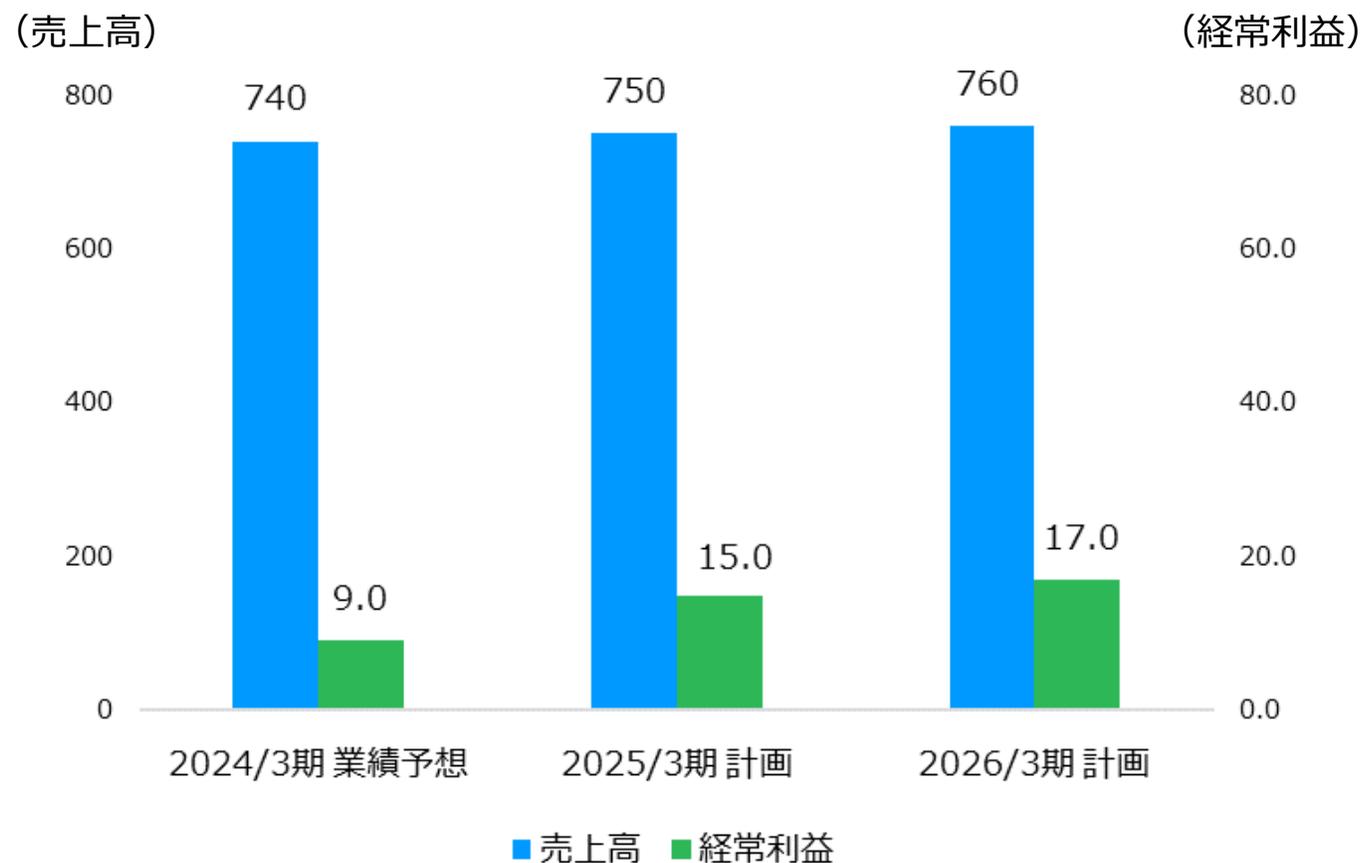
【2024/3期 主な連結経常利益又は損失(△)変化要因】

- ガラスびん関連事業において、約13億円の増益の見込み
- 全社調整において、収支マイナスではあるものの、米国およびフィリピン関連会社の業績回復により、大幅に改善する見込み

売上高/経常利益 3か年計画数値

連結

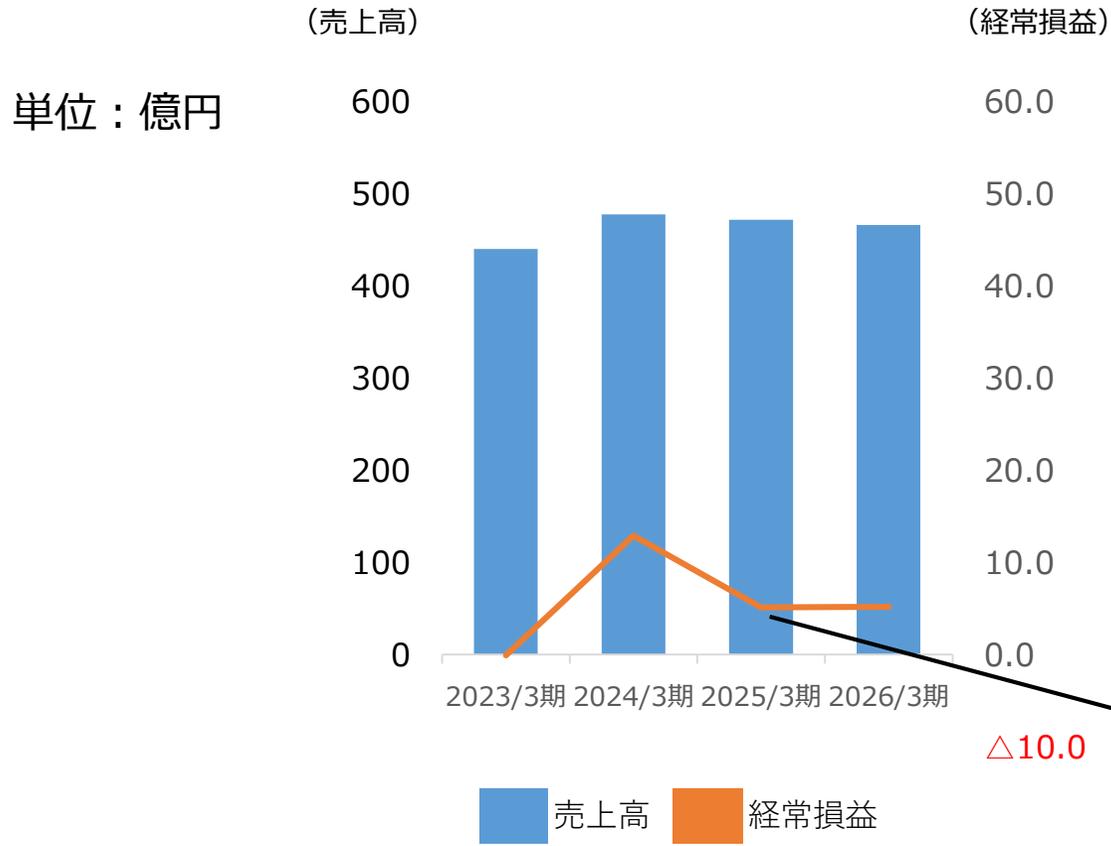
単位：億円



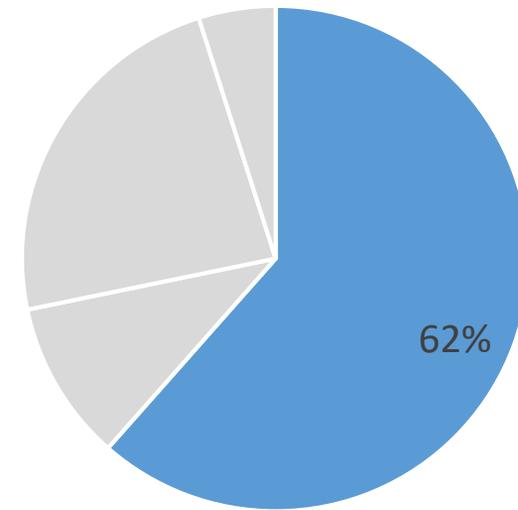
事業構造改革により、成長に向けた事業基盤を整備し、新中計期間は着実な利益計上を見込む

セグメント別 売上高/経常利益 計画（ガラスびん）

セグメント	基本方針
ガラスびん 関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 固定費削減や生産効率化による収益力強化 ▶ 設備の改良による脱炭素への対応 ▶ 人手不足への対応（機械化やデジタル化による労働環境の改善）



2026/3期 売上高占有率



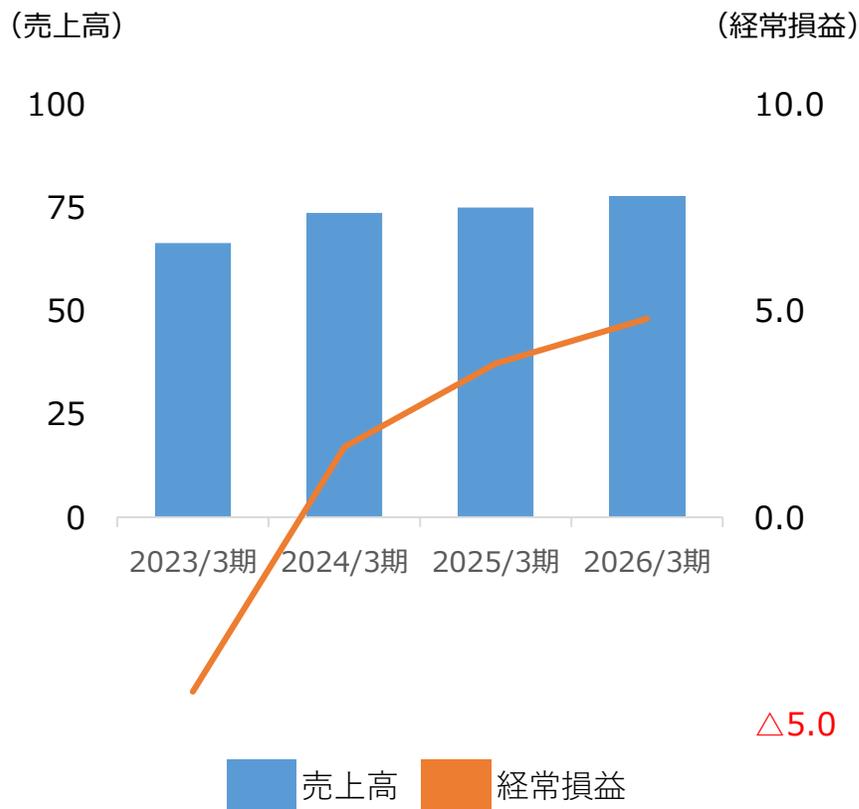
利益減の要因

- ・コスト増
- ・償却費増
- ・需要減

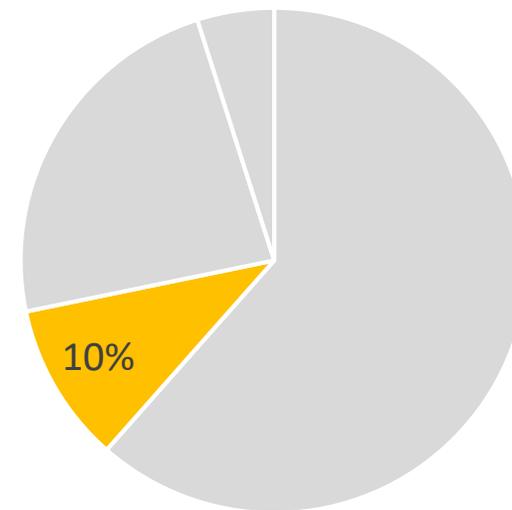
セグメント別 売上高/経常利益 計画（プラスチック）

セグメント	基本方針
<p>プラスチック容器 関連事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 既存事業の収益力強化と新規事業（医療・介護製品）の推進 ▶ 環境貢献活動による事業機会の創出 ▶ 海外拠点・アライアンスパートナー企業との連携強化

単位：億円

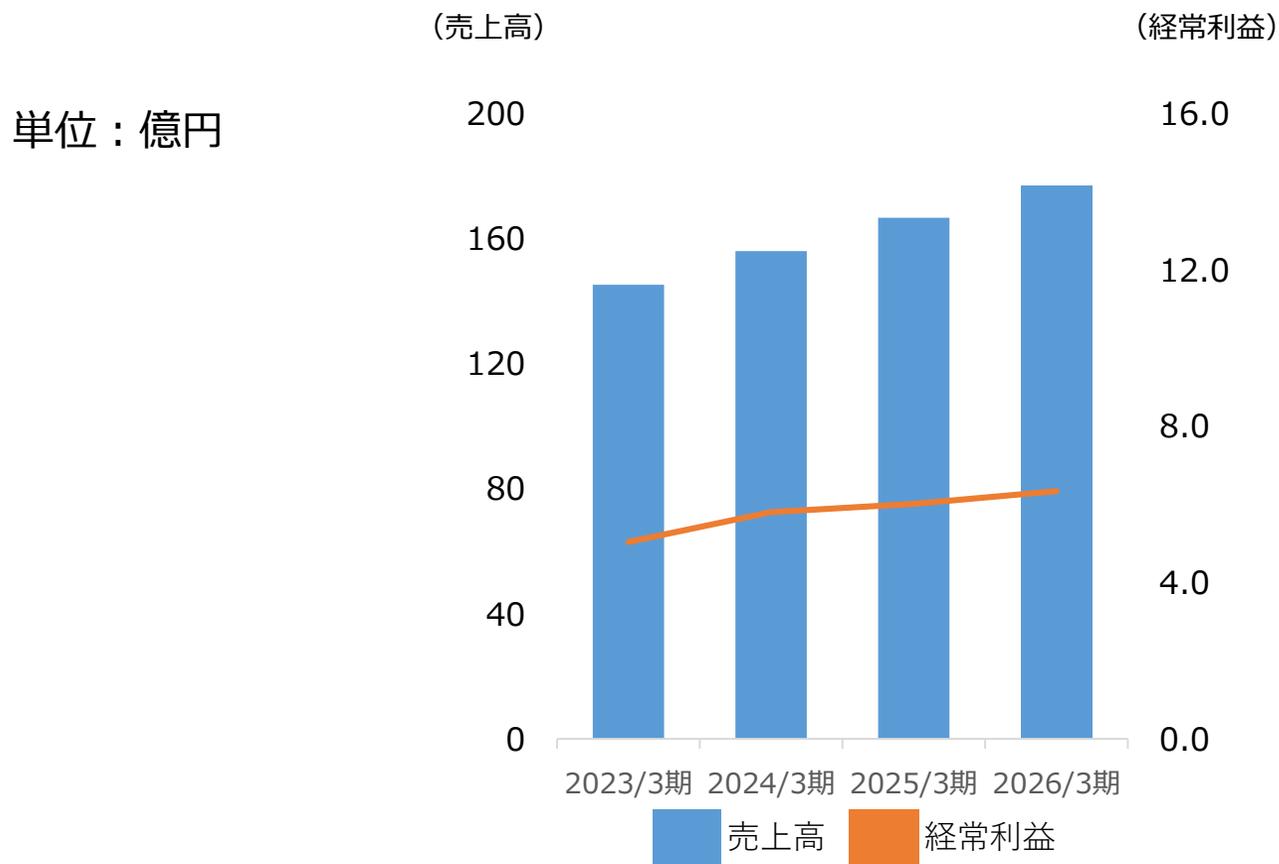


2026/3期 売上高占有率

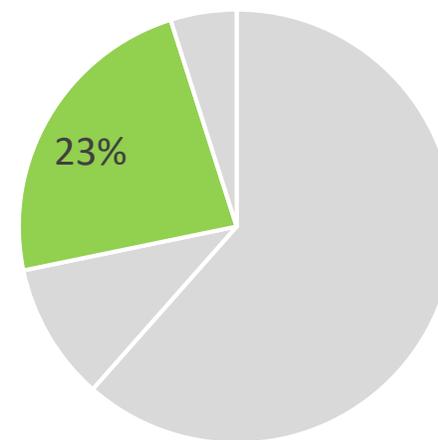


セグメント別 売上高/経常利益 計画（物流）

セグメント	基本方針
物流 関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 既存営業所の収益力強化（不採算部門の重点管理） ▶ 新業種・業態への進出 ▶ 2024年問題への対応



2026/3期 売上高占有率



セグメント別 売上高/経常利益 計画（ニューガラス）

セグメント	基本方針
<p style="text-align: center; color: white; font-weight: bold;">ニューガラス 関連事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 既存製品の売上拡大と新規顧客開拓 ▶ 先進分野での高付加価値製品の開発 ▶ 海外市場への営業強化

単位：億円

(売上高)

(経常損益)

80

16.0

60

12.0

40

8.0

20

4.0

0

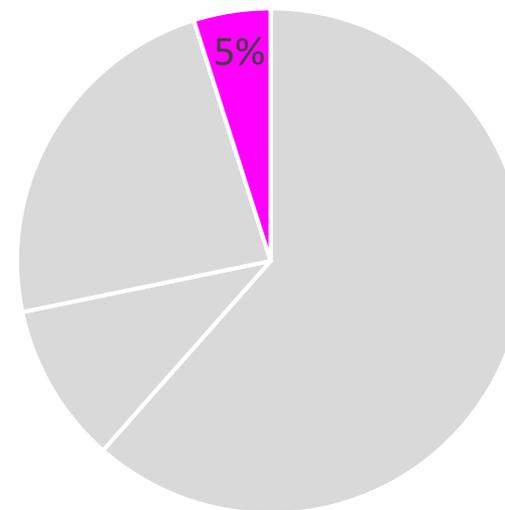
0.0

2023/3期 2024/3期 2025/3期 2026/3期

■ 売上高 ■ 経常損益

△4.0

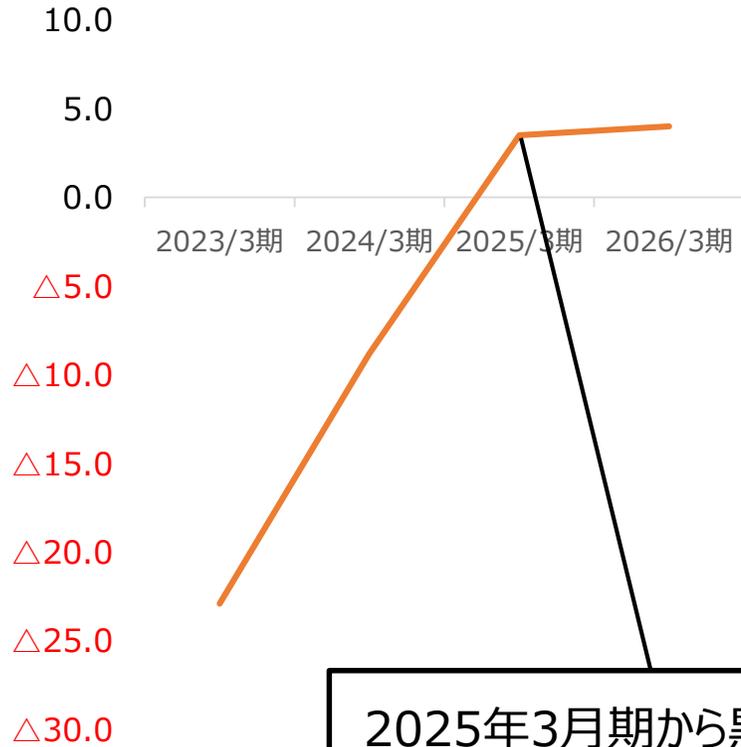
2026/3期 売上高占有率



海外持分法適用関連会社 計画

【持分法による投資利益又は損失（△）】

単位：億円



2025年3月期から黒字化し、安定した業績を見込む

サンミゲル山村パッケージング・グループ

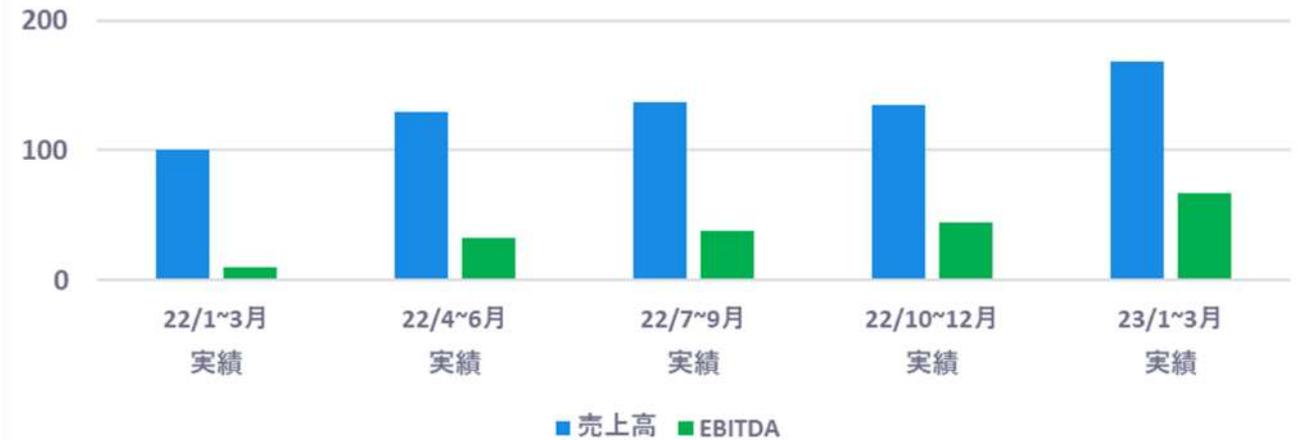
COVID-19の収束により、フィリピンをはじめ海外市場の需要増加に伴って業績改善の見込み



アルガラス山村

売上高とEBITDAの成長

(2022年1～3月売上高=100)



1. 前 中期経営計画（2021年3月期-2023年3月期）レビュー
および2023年3月期 連結業績概要
2. 新 中期経営計画（2024年3月期-2026年3月期）および
長期ビジョン
3. トピックス

ガラスびん製造における機械化の推進

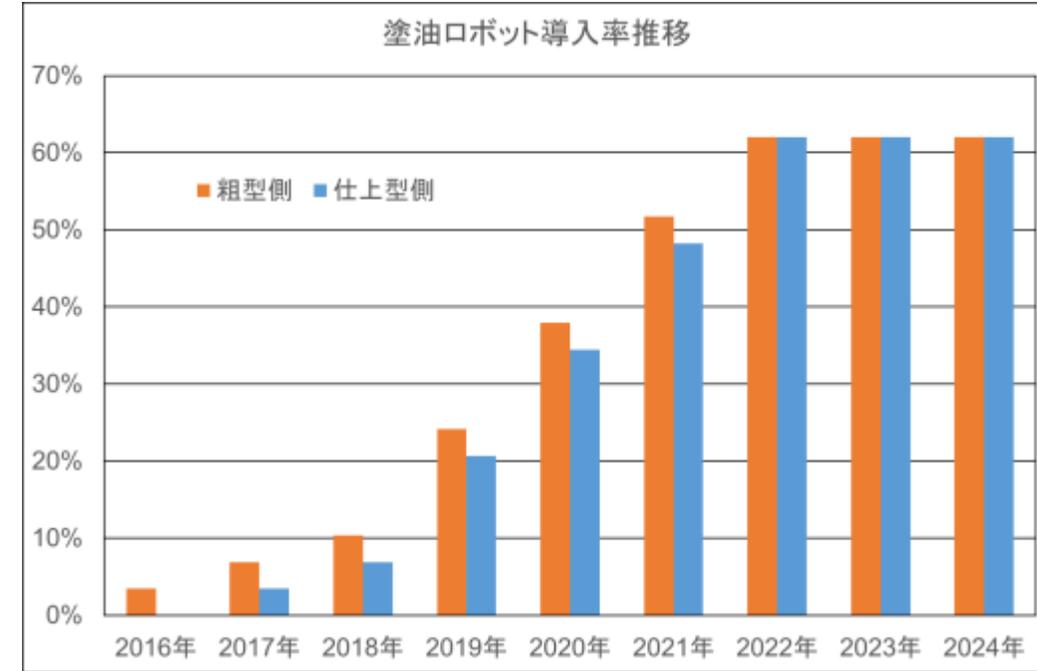
手作業

ロボット

粗型塗油



仕上型塗油



製造現場における機械化を推進することで、人手不足への対応を図っている
人手と同等の製品品質を実現

【新規取り組み】山村JR貨物きらベジステーション株式会社 (YJKS)

- 新工場（福井県おおい町）が2023年4月より稼働
- 栄養豊富な高付加価値野菜を生産（ケール等）



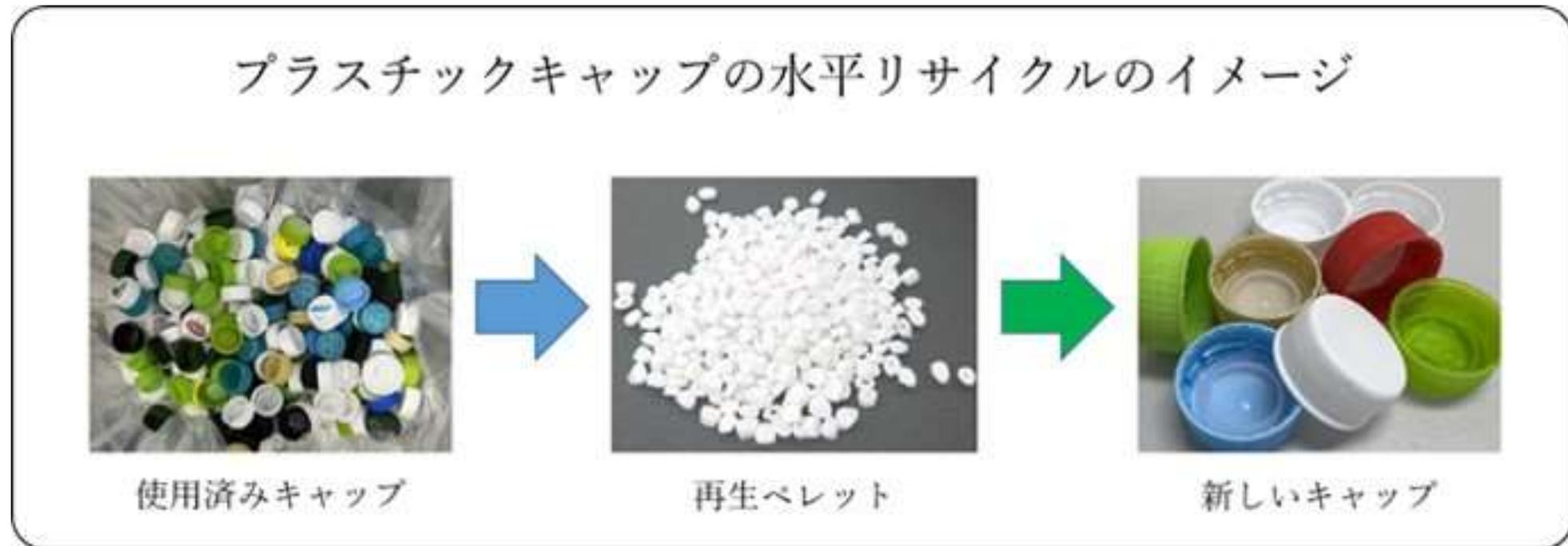
【新規取り組み】 医療・介護向け製品

- 「ぴったりトロミがつくカップ」を販売開始
- 水分に適切なトロミづけが可能
- 誤えんの軽減に貢献



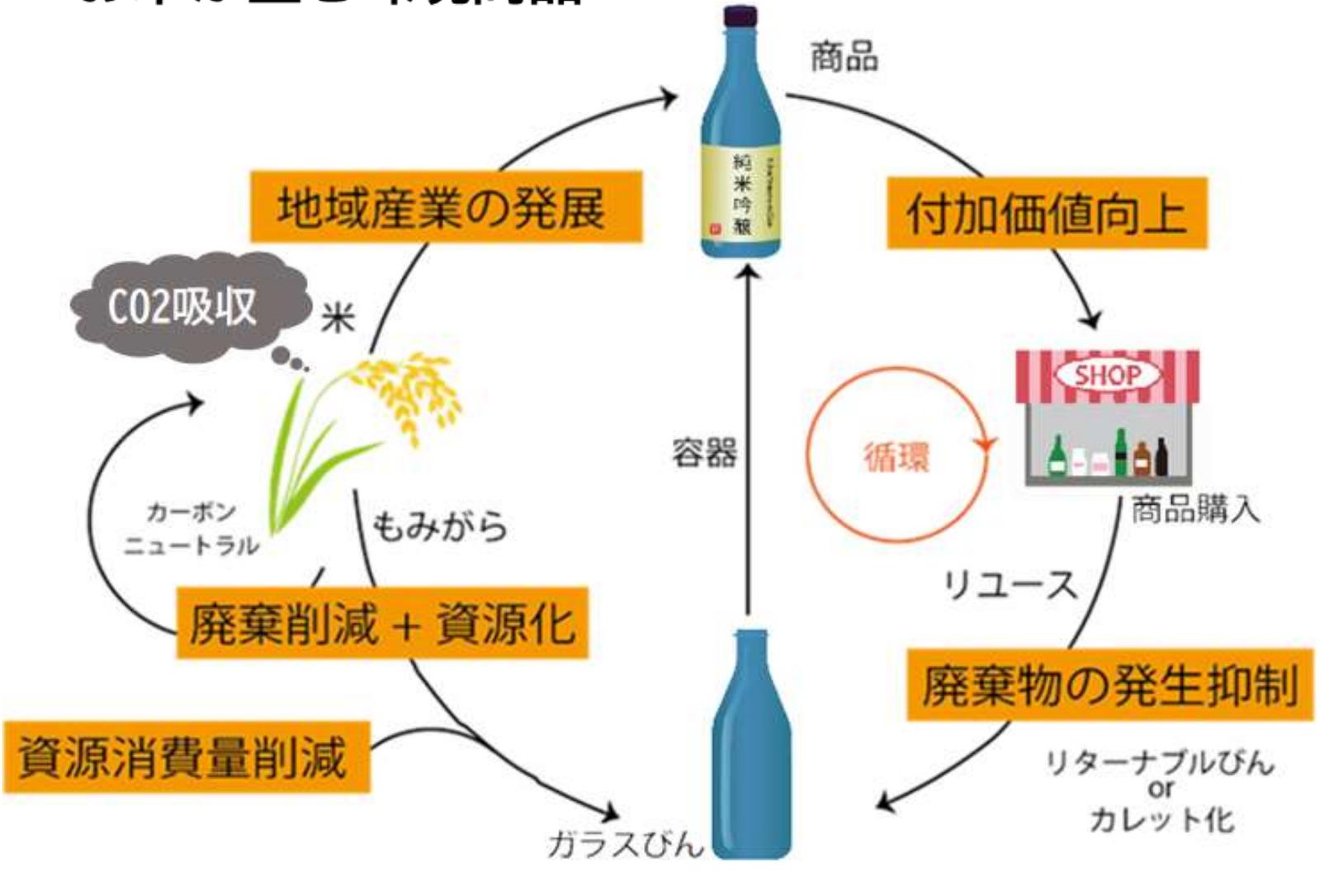
【環境関連の取り組み】 キャップの水平リサイクル

- プライムポリマー株式会社と共同で取り組みを開始
- 当社はキャップの回収・選別を担当
- 生産量（約1万トン/年）と同等の量を回収・再生することが目標
- 事業化を目指す



【環境関連の取り組み】 もみ殻を原料にガラスびんを製造

<お米が生む環境商品>



- 山村製壺所で製造
- 商品化の準備中

【環境関連の取り組み】 脱炭素 NO_x低減技術ビジネス化

プラズマケミカル法を用いた NO_x低減技術

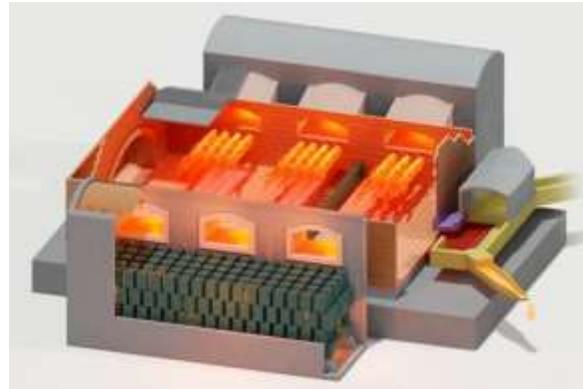


2011年～ 技術調査
大阪府立大学研究成果

2018年～ 実用化開発
NEDO戦略的省エネルギー技術革新PG（優秀賞）

特許取得 5件

燃料の脱炭素化技術



2020年～ 技術調査
ガラス溶解炉脱炭素への可能性

ガラス溶解炉の
脱炭素達成へ貢献
他産業の工業炉へも応用可能

2023年 100%アンモニア燃焼で
ソーダ石灰ガラスの溶融に成功

【環境関連の取り組み】 ガラス溶解炉で酸素燃焼を活用

メリット：溶解エネルギー減、排ガス量減、NO_x減、CO₂減

- 山村製壘所の酸素燃焼溶解炉は日本のガラスびん業界で唯一
- 米国のアルガラス山村でも使用



【環境関連の取り組み】 SBT認定取得活動



パリ協定が定めた「2℃目標・1.5℃努力目標」の実現に向け、科学的知見と整合した温室効果ガス排出目標を企業が設定することを推進

■ 2023年8月 SBT認定取得予定

Scope1+2 : 2019年比2030年46.2%削減

Scope3 : 2019年比2030年27.5%削減

※ 将来的には、CDP、TCFDへステップアップも視野に入れる

■ SBT認定取得のメリット

1. 企業の技術革新を促す
2. 製作や規制の先導役目、政策立案や立法に影響を与える
3. 投資家の信頼・信用を強化する
4. 収益と競争力を向上させ、持続可能な企業へ導く

【環境関連の取り組み】 空気中のCO₂を回収して原料としたガラス

- G7 広島サミットで展示
- 空気清浄機の使用済み CO₂フィルター (※) を用いてガラスを製造



G7 広島サミット会場の展示

※株式会社レプセルが開発したCO₂フィルターを活用 33



・ニュースリリース増（2019年度比 238%） ・メディア取材対応10件



日本山村硝子株式会社

Heart & Technology

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、当社が本資料発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断される一定の前提に基づいており、当社としてその実現を保証するものではなく、実際の業績はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。